

熱性けいれん



○どんな病気？

・熱性けいれんの定義

「主に生後6～60か月までの乳幼児期に起こる、通常は38度以上の発熱に伴う発作性疾患で、髄膜炎などの中枢神経感染症、代謝異常、そのほかの明らかな発作の原因がみられないもので、てんかんの既往のあるものは除外される」

つまり、基礎疾患のない、脳炎・脳症・髄膜炎などにかかっていない、てんかんなどの病気ではないお子さんが、発熱時にけいれんを起こすことをいいます。・発症頻度は7～10%(10～15人に1人)

・熱性けいれんの再発(2回目を起こす頻度)は約25～50%(平均30%)で、過半数のお子さんは生涯を通じて1回しか発作を起こさないとされています。・発作を起こす時期は生後6か月から3歳までが多く、その中で初発年齢(初めて熱性けいれんを起こす年齢)は1歳代が最も多いです。

・インフルエンザや突発性発疹症、麻疹(はしか)、ロタウイルス感染などはけいれんを起こしやすいウイルス疾患です。

・家族歴が濃厚なことが多いです。

○どんな症状？

・体温は39度以上の高熱の時が多いです。

・発作は通常5～6分以内でおさまります。

・熱性けいれんを起こすタイミングとして多いのが、発熱を認めて12時間以内に、体温が急激に上昇する時にけいれん発作を認めることが多いです。けいれんが起こってはじめて発熱に気づくこともあります。時には、37度台の体温でけいれん発作が起こり、その後1～2時間たってから体温上昇を認めることもあります。

・急に、唇や皮膚が紫色になり(チアノーゼ)、目が片方によって、全身がガクガクと震えたり、手足が硬くつばって、意識を失います。この時の手足の動きは左右対称です。また、発作が終わった後眠ってしまうことがあります。

○自宅でけいれんした時、どうしたらいい？

1)まず、あわてない、あわてない！

突然のけいれんは誰でもびっくりします。でも決してあわてないでください。2)時計をみる。

けいれんの持続時間を測る。

3)楽にさせてあげる

衣服をゆるめる。特に首まわりをゆるくしてあげる。

4)顔は横向き

嘔吐対策で、横向きに寝かせる。吐きそうな時は顔を横に向ける。5)できれば、観察

顔色、目の動き、手足の動き(ガクガク？ つっぱっている？ 左右対称？)

おさまってからの様子(泣いた？ そのまま眠った？ 手足の動きがへん？) 6)意識がもとに戻るまで必ずそばにいる。

○おさまったら

・様子の観察

顔色は？ 泣いた？ そのまま眠った？ 呼びかけると反応する？ 麻痺は？

・無理に起こさない。

けいれんがおさまるとそのまま眠りこんだり、ぼーっとしたりすることもあります。顔色が良く、穏やかに呼吸をする、目が合う、声かけに反応する場合はそっ としてあげてください。

○やってはいけないこと

・刺激をしない

→大声で名前をよんだり、体をゆすることはしないでください。・口の中にタオルや割りばし、指はいれない。

→口の中を傷つけたり、吐く原因になります。
舌をかむ心配はありません。

★こんな時は迷わず救急車を！★

- ・発作が5分以上続くとき
- ・けいれんはおさまったけど、意識がもどらない 顔色がもどらないとき
- ・1歳未満の赤ちゃんがけいれんしたとき
- ・6歳以上のお子さんのけいれん
- ・手足のけいれんが左右対称ではないとき
- ・けいれんが体の一部だけのとき
- ・24時間以内に繰り返してけいれんを起こしているとき
- ・一度止まったけいれんをまた繰り返すとき

熱性けいれんではないですが、

- ・熱のないけいれん
- ・頭を打ったあとのけいれん



○通常の受診で大丈夫な場合

- ・5分以内の熱性けいれんで、すでに止まっている。
- ・5分以内のけいれんで、おさまった後、意識がはっきりしている

★以上のようなけいれんでも、初めてけいれんをおこした時は、必ず 受診をしてください。